（別紙4）　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1171700261		
法人名	株式会社　ユニマットそよ風		
事業所名	こうのすケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県鴻巣市天神4－32－1		
自己評価作成日	平成24年1月22日	評価結果市町村受理日	平成24年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	平成24年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

●季節を感じていただける様なイベント行事を職員の出し物やボランティアの協力により行ない、楽しんでいただいています。●外出や地域の催しなどに出かけ、気分転換を図っています。●毎日の食事作りの他、誕生会やフードセラピーでおやつ作りも楽しんで行なっていただいています。●毎日、散歩の時間を作り、利用者の意見を尊重しながら外出の機会を設けています。●季節感あふれる手工芸を作成し、展示することで張り合いや楽しみとなっております。●身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会主催のグループワーク等を全職員で実施することで、身体拘束廃止の意識を高めています。●消防署・消防団・地域等の合同避難訓練や、夜間連絡網の防災訓練を実施しています。●ご家族様も参加され、お鍋や焼肉パーティーなどを楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

理念にある「利用者ありき」の考え方が事業所全体に浸透され、利用者は自分のペースでゆったりした生活を送られ、職員も落着いてケアにあたられており、接遇面も行き届いている。
職員のアイデアで、共用空間に日本地図を貼り、利用者個々の生活目標の達成を目指して旅をする企画などの工夫や、居室を自宅のままの環境となるよう、使いこなした鏡台やタンスなどが持ち込まれるなど、利用者本位の落着きある生活への配慮がなされている。
平成22年度の目標達成計画の災害対策については、地域住民参加の避難訓練が実施され、地元の消防団との協力体制の構築が図られている。また、利用者への達成感のある生活の提供についても取り上げ、個々の生活目標を居室に貼り、その達成に向けて様々な工夫を図っていることなどから、目標の達成がうかがわれる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	○	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	○	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で生活。安心・安全な環境」を理念に掲げ、住み慣れた地域で一人ひとりの利用者が安心した環境の中で笑顔の絶えない生活を送れる様支援している。	個々に合わせた介護が利用者の笑顔につながるという理念の考えが、職場全体に周知されている。常に「利用者ありき」の考えで、利用者のやりたいことをかなえ、それにより、利用者が笑顔の生活ができることを最優先にケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の様々な行事へ参加したり、施設のイベントに招待するなど、積極的に地域との交流を図っている。また、毎月、地域のボランティアの集会・発表場所を提供したり、地域合同の避難訓練を実施している。	地域の相互交流を大切に、様々な地域への貢献が行われている。市のまつりの子供神輿の休憩所として、子供達との交流が図られたり、震災時、近隣の独居高齢者の避難先として、受け入れを行うなどの取り組みがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成のため介護職員基礎研修、訪問介護養成研修の実習生受け入れを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に一回は市役所も参加していただき情報交換や、具体的な議題にそった話し合いを行い、助言や意見をいただいている。また、会議での意見はミーティングでの議題とし、サービス向上に務めている。	定期的に開催され、事業所側の一方的な報告会にならないよう、家族にはアンケートなどを通じて、取り上げたい議題を聴くなどの工夫が図られている。外部評価結果の報告もなされ、それに対する家族の意見も出されるなど、活性化に努められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所としての活動報告や、介護サービスについての取り組み状況、報告、相談等、良好な関係作りに取り組んでいる。	運営推進会議の参加者である地域包括支援センターとの交流を中心に、市担当者からも、情報を得るなどの連携が図られている。また、市主催の「介護者の集い」では「お試しホットデイ」として、利用者・家族の見学を受け入れるなど、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会の主催で勉強会や全員参加のグループワークを行いケアの徹底をしている。利用者が外出するときは一緒に付き添い、安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。	「身体拘束廃止委員会」が、毎月、理念に沿った標語を出し、それをもとに、職員全員が拘束のないケアに取り組まれている。客観的な気付きを大切に「スピーチロック気にする係」を職員交代で実践し、お互いのレベルアップにもつなげられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会を設け、高齢者虐待・身体拘束の事例検討会、勉強会などを行い全職員に統一した対応を徹底している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は社内研修や勉強会において統一した知識を身に付けている。また、成年後見制度が必要なケースでは管理者、計画作成担当者が対応し必要な支援を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明を心がけ、不安や疑問がないか伺い、納得いただけるよう対応している。料金や緊急時の対応などについても説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、家族会、運営推進会議において意見、要望を出していただける機会を設けている。利用者やご家族からの意見は夕礼などで話し合い統一した対応を周知徹底している。	運営推進会議や家族会を中心に、家族の要望を伺い、緊急時の避難方法や納涼祭の実施方法などについても、積極的な意見交換が行われ、夕礼やミーティングで、職員にも周知され、事業所の運営にも反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞き、マニュアルの見直しを行うなど、質の向上につなげる取り組みを行っている。新人には3ヶ月の研修報告書の提出により、きめ細かな指導のもと、不安を取り除く体制作りにつとめている。	社内研修が徹底されており、職員の業務への意識は高い。職員からの意見で、新人の指導方法を変え、研修内容が統一されたり、「レク給食委員会」が提案する計画書をもとに、事業所のレクレーションが行われるなど、職員意見が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境作りにつとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、現任の研修の実施を含めたさまざまな研修参加の機会のほか、支社内の意見交換会などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会には参加していないが、グループホーム協議会主催の勉強会の参加や認知症ケアネットへの参加の他、支社内センターとの意見交換会に参加することで、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ずご本人に会って心身の状態や思いに向き合い、職員がご本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯を理解し、家族が困っていること、不安に思っていること、要望などゆっくり聞くような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所のサービスにつなげる対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者から教えていただく場面が多く、職員と利用者の信頼関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いや要望をお聞きすると共に、日頃の様子やご本人の思い、職員の考えを細かく伝えていくことで、支援の方向性を一致させ、協力してご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所する際は、馴染みの物を持参して頂くことで落ち着いて生活できる環境作りに努めている。また、併設のディサービス利用の知人との交流を支援したり、住んでいた所の名所へ出掛けたりして思い出を断ち切らないように支援している。	利用者の出身地の桜を見に出かけたり、知人からの年賀状の取次ぎや、返事を書くのを手伝ったりと、馴染みの関係が途切れないよう支援がなされている。また、併設のデイサービスの顔なじみの利用者との朝の会話を習慣化するなどの配慮も見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて家族、他事業所の相談にのって支援している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向の聞き取りアンケートを実施したり、日々の関わりの中で言葉や表情、行動などから利用者の思いを汲み取り、意向の把握に努めている。	利用者が自分の思いを伝えやすくなるよう、できるだけ具体的な選択肢を入れた会話、聴き取りに心がけられている。さらに訴えの少ない利用者にこそ、より気を配り、思いに応えられるよう取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用を開始する際にご本人、ご家族から聞き取る他、利用後もご本人、ご家族とのコミュニケーションの中から生活歴や馴染みの暮らし方、生活状況などをお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムを理解し、言動や小さな変化を見逃さないよう、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題となることをケアカンファにて話し合い、ご本人やご家族の要望を聞き、利用者の現状に即した介護計画を作成している。毎月、生活の目標を決め、張り合いのある生活を送って頂けるよう支援している。	カンファレンスを全職員参加で実施することで、利用者の情報共有が図られ、現状に即した介護計画が作成されている。また、作成後、ケアマネージャーや計画作成担当者が家族に丁寧に説明を行い、同意を得られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、排泄などの身体状況、その日の様子などご本人の言動を個々のファイルに記録している。また、個別記録をもとに介護計画の見直し等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応している。ディサービスフロアにて行われる陶芸教室やフラワーアレンジメント教室などに参加するなど利用者のニーズに対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で民生委員と意見交換をする機会を設けている。ハーモニカのボランティアが毎月来所したり、防災訓練に消防署、地域の消防団が参加したりと、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人と家族が希望するかかりつけ医となっている。家族の協力を得ながら受診されたり、対応困難な場合には事業所の協力医療機関等を紹介し、訪問診療してもらうなど適切な医療を受けられるよう支援している。	家族、医療機関、事業所との連携が図られている。家族同行でのかかりつけ医への受診時には、日常の利用者の様子や体調の変化などの情報をメモにして医療機関に伝えるなど、適切な医療サービスが受けられるよう支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の看護職員に相談し利用者の健康管理、状況変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカー、ご家族と情報交換しながら、回復状況など速やかな退院支援に結び付けている。安心して頂ける様職員が見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人とご家族の意向を話し合いながら、かかりつけ医と相談し、状況の変化に応じた支援を行っている。急変した場合はすぐに対応していただける様、医療機関との連携を図っている。職員間では利用者の状況を共有し、チームでの支援に取組んでいる。	常に話し合い、家族の意向・不安を聴き取ると同時に、事業所側の考えもはっきりと伝えられている。家族や医療機関との連携を図りながら、できるだけ利用者、家族の要望に応えられるよう努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急手当や蘇生方法などの普通救命講習を定期的に受講し、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民にも参加して頂き、バケツリレーでの消火訓練を行ったり、消防署・地域の消防団・地域住民等の合同避難訓練を定期的に行うことで、日頃から協力体制を得られる様な関係作りに努めている。	地区消防団、地域住民との合同避難訓練が行われ、事業所の現状への理解が深まり、利用者の安全について、様々な話し合いがなされ、備蓄の点検、防災マニュアルの見直しなどの取り組みも行われている。	地域住民との合同避難訓練を習慣化することで、具体的な支援、救助の方法などを確認し、お互いの役割分担をきめるなど、協力体制の構築につなげられることに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	「利用者の意向を伺う」という姿勢が職員全員に周知され、一人ひとりの尊重と尊厳を守るケアが実践されている。また、排泄や入浴介助時、汚れた物は、目の付かない所へ片付けるなど、プライドを傷つけない気配りも図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にあわせて声掛けし、意志表示困難な方には表情で読み取れるよう関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、ひとりひとりの体調や気持ちに配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望をお聞きしたり、ご家族に好みを伺ったりしながら、ご本人に沿った支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しい雰囲気の中で食事をしている。朝食のパンバイキングを行ったり、昼食をセレクトで選んで頂いている。また、毎日の食材の買い物や下ごしらえ、片付けなども一緒に行っている。	食材の買い物への利用者の参加、パンやサンドウィッチを食べ易いように切って出し、好きな物を取って、食べていただくパンバイキングなど、食事が楽しくなるよう、様々な工夫がなされている。また、家族に献立表を送ったり、家族会で焼肉パーティをするなどの取り組みもなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎日チェック表に記録し、職員が共有してひとりひとりの習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行ない、ひとりひとりに応じた見守りや介助を行っている。就寝前には口腔ケア後、義歯洗浄剤につけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、ひとりひとりの排泄パターン、習慣などを把握してトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	「トイレでの排泄が基本」との事業所としてのこだわりがある。家族の了解も得ながら、夜間であっても、立位や座位がとれる利用者なら、トイレでの排泄誘導に努められている。骨折退院後の利用者が、オムツからトイレでの排泄ができるようになった事例も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を良くする食物や毎日の食事の食材の工夫により自然排便を促している。また、運動への働きかけや家族希望の食材などにより、個々に応じた便秘予防に取組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日以外の毎日、夕方四時から行なっている。ひとりひとりが楽しんで頂けるよう、入浴の順番を変えたり、ゆず湯、しょうぶ湯など季節を楽しんで頂いている。	入居前の生活パターンを大切に、入浴は夕方4時から行うように努められている。安全面への配慮から利用者によってはデイサービスの機械浴を利用されている。利用者の希望で入浴する順番を決めるなど、楽しい取り組みもなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。夜、寝付けない時は温かい飲み物を飲みながらゆっくりおしゃべりするなどして、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて処方箋のコピーを整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時はご本人に手渡しし、きちんと服薬できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力をいかして仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。外出やイベントなどの企画を相談し、一緒に決めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を毎日の日課にしており、利用者個々の身体能力に合わせて距離を調整している。家族会開催の機会にご家族と一緒に行きたい所へ一緒に出掛けられるように支援したり、利用者様からの声で外出先を決めたりしている。	利用者の希望や家族からのアンケート結果にもとづき、家族も一緒に人形展やお花見に出かけるなどの外出支援に努められている。また、日常的には散歩を日課とし、「1日1回は外に出る」をモット―に、食材の買出しに職員と出かけるなどの取り組みも行われている。	日常の利用者の生活ぶりは、家族にとっても関心の高いことであり、事業所への安心感と信頼感を得るため、日課としている散歩などの、日常の外出の様子を写真に撮り、家族に伝えるなどの取り組みに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとりひとりの希望や力に応じて、家族の協力を得て、所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	掛かってきた電話は事務所や居室でお話できるようになっている。年賀状や手紙を出す為の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭での音や匂いなど、利用者が安心して生活を感じることの出来る環境作りを大切にしている。季節ごとの料理やお菓子作り、利用者が作成する特大カレンダーや作品を飾ることで季節を感じていただいている。	「事業所全部が自分の居場所」と利用者に感じていただけるよう、生活感や五感への刺激などを大切にした共用空間作りがなされている。利用者にはできるだけ、リビングに出てきていただき、職員も交えて、「皆んなでいっしょに何かをする」よう取り組まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチやフロア内のソファ、畳などで自由に過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者ひとりひとりの思いやこだわりを大切に、好みや馴染みの物をいかして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者・家族の思いを尊重し、自宅の居室に合わせた環境の演出に気を配り、使い込まれた鏡台や箪笥などが配置され、その人らしい居室作りがなされている。入り口には、利用者自身の作品と写真が飾られ、自分の部屋として過ごせるような配慮もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全の確保と自立への配慮をしている。		

（別紙4（2））

事業所名　こうのすケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日：　平成　24年　　4月　　27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域住民との合同避難訓練を習慣化することで具体的な支援、援助の方法などを確認し、お互いの役割分担をきめるなど協力体制の構築につなげる。	少しずつ定着しつつある地域との合同避難訓練を習慣化できる様に防災についての取り組みを実施する。	天神地区の自主防災会に参加し、地域との合同の防災訓練を一年間通して行っていく。4/14地域合同避難訓練を実施する他、消火訓練、通報訓練も実施する。	12ヶ月
2	49	事業所への安心感と信頼感を得るため、日課としている散歩などの日常の外出の様子を写真などをとり家族へ伝える。	行事などの報告だけでなく、日常の散歩、運動レクなどの様子を家族へ伝える。	毎月の利用状況報告において、行事の時の写真だけでなく、日常の写真をプラスする。家族会で日常の生活を知っていただける企画をする。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。